

# 方言札の 近現代史

2025年5月新刊!

—沖繩言語教育の研究—

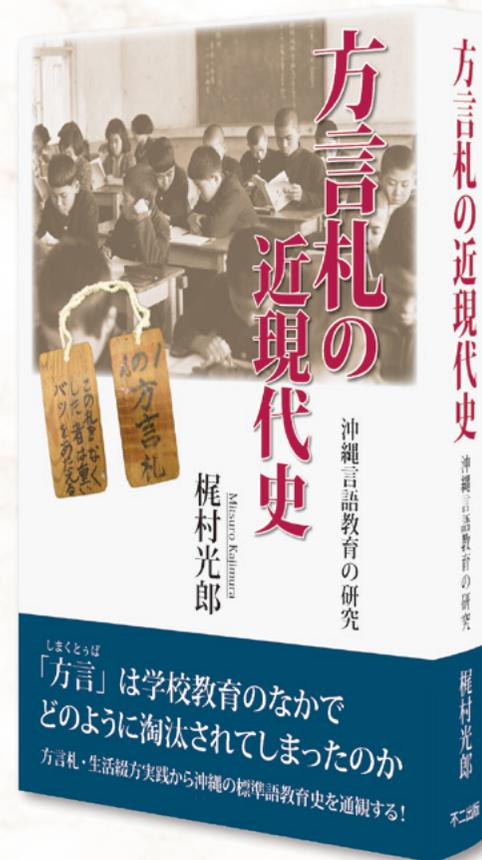
梶村光郎 (琉球大学名誉教授)

しまくとぅば  
「方言」を話したら罰せられる……

近現代沖繩における標準語教育の苛烈さを示す方言札は、いつから／いつまで利用され、実態はどのようなものであったか？ 沖繩における綴方教育の実践の歴史と合わせて紐解くことで、戦前の皇民化教育から復帰後の1970年代まで、沖繩における言語教育の歴史を通観する！

## 本書の特色

- 方言札使用の最古／最新の事例を、丹念な資料調査とインタビューにより発掘。「しまくとぅば」が消滅危機にある今、その大きな要因である学校教育における標準語強制が、なぜ深刻なものになってしまったかを問う。
- 大正新教育の重要な柱であった綴方教育においてさえ、「方言」の使用は禁じられていった。そのようななか、金武尋常高等小学校の北村柏楊の綴方教育や石垣島の岩崎卓爾の教育文化活動のなかに「方言」が使用された事例を発掘し、その意義を問う。
- 補章ではベトナムの少数民族教育にも触れ、言語教育とアイデンティティの問題をグローバルに考える視点を提供。



A5判／上製／総314頁

定価7,150円

(本体6,500円+税10%)

ISBN 978-4-8350-8833-4 C3037

## ＜方言札とは……＞

方言の使用を咎めるための罰札。本書では、沖繩での方言札使用ついて、札を渡されること以外の罰(掃除や評点の減点など)の有無や、材質・形状など、時期や学校によって様々に用いられたことを明らかにしている。またその出現時期についても、1895年度か1896年度の使用事例までさかのぼれること、1975年度まで使用された事例があることを確認している。

なぜ沖繩では標準語教育が苛烈に  
進展してしまっただのか

## 本書目次

### 序

本書の関心と課題／本書の構成

### 第一章 沖縄における方言札の出現

はじめに／一九一一年度以前の方言札の出現の状況／一九一一年度以前に出現した方言札の実態／一九一一年度以前の方言札の事例が意味するもの／おわりに

### 第二章 篠原一二の標準語教育実践

はじめに／篠原一二の標準語教育実践の背景／篠原一二の標準語教育実践／篠原一二の標準語教育実践の意味／おわりに

### 第三章 明治期沖縄の綴方教育と標準語励行

はじめに／「同化」＝「皇民化」を目的とする沖縄の同化政策／同化政策と地域語禁止・標準語強制の教育の実態／綴方教育における地域語の禁止・標準語の強制／おわりに

### 第四章 大正期沖縄の綴方教育と標準語励行

はじめに／大正期の沖縄の標準語教育をめぐる言説／大正期の沖縄の標準語教育実践／大正期沖縄の綴方教育と標準語教育／おわりに

### 第五章 岩崎卓爾の地域語・標準語併用の教育文化活動

#### 動

はじめに／岩崎卓爾と彼の言語観／教育文化活動における言語教育的側面／岩崎の言語教育活動の意味／おわりに

### 第六章 『児童の産業』掲載の綴方作品の傾向と教育的意味

はじめに／児童新聞『児童の産業』の発行と子どもの作品の

掲載状況／子どもの作品と『児童の産業』の評価／子どもの作品の特徴とそれが意味するもの／おわりに

### 第七章 昭和初期の標準語励行と綴方教育

はじめに／標準語励行をめぐる沖縄県内の動向／沖縄における標準語励行と綴方教育／学校文集における標準語励行と方言／おわりに

### 第八章 方言札体験調査から見た戦前・戦後の標準語励行

#### 励行

はじめに／「方言札」体験調査表」を利用した聞き取り調査／「方言札」体験調査表」から見える方言札とその分布／方言札の実態／方言使用に対する指導／おわりに

### 第九章 戦後沖縄の作文教育運動

はじめに／生活綴方教育との出会い／沖縄作文教育協議会の結成／沖縄作文教育協議会の活動と性格／おわりに

### 補章 ベトナムの少数民族教育と教員養成

#### ―タイゲン師範大学の場合―

はじめに／タイゲン師範大学の少数民族対策の背景／タイゲン師範大学の少数民族対策／タイゲン師範大学の少数民族対策の特徴とその意味／おわりに

### 終章

話し言葉による言語活動の教育と標準語励行／書き言葉による言語活動の教育と標準語励行／「普通語」をめぐる沖縄と「中央」

あとがき

沖縄言語教育関係年表

人名索引

## 関連史料のご案内

### 復刻版 沖縄教育 全39巻・別冊1

「琉球教育」の後継誌である本誌は、一九〇六年三月に第一号が創刊された。皇民化教育が行われるなかで、当時の教育者たちは何を考え、実践していたのか。沖縄教育史に必須であるのみならず、沖縄社会の様子を伝える本誌を復刻し、解説および総目次などを併せて提供する。



B4判・A5判／総上製／  
総一三、九六六頁  
揃定価六二七、〇〇〇円  
(揃本体五七〇、〇〇〇円＋  
税一〇％)  
別冊・解説・総目次・索引  
藤澤健一・近藤健一郎・梶村光  
郎・三島わか  
※別冊のみ分売可。  
定価二、〇〇〇円  
(本体二、〇〇〇円＋税一〇％)

## 著者紹介

### 梶村光郎 (かじむら みつろう)

一九五〇年生まれ。一九八三年筑波大学大学院博士課程教育学研究科(日本教育史専攻)単位取得退学。上武大学、琉球大学、東邦大学を経て、二〇一一年沖縄大学人文学部こども文化学科学教授(二〇二二年退職)。琉球大学名誉教授。

#### 主な業績

『復刻版 沖縄教育』(共編著、不二出版、二〇〇九～二〇二二年)、『復刻版 国語創造』(編著、緑蔭書房、一九九九年)、『戦前戦後日本の学校文集』(共編著、大空社、一九九三～一九九四年)、『北中城村史 第七巻 文献資料編』(共著、北中城村、二〇二二年)など。

不二出版・発行 梶村光郎・著

## 方言札の近現代史

### 沖縄言語教育の研究

定価七、一五〇円(本体六、五〇〇円＋税一〇％)

ISBN 978-4-8350-8833-4

注文カード

帖合・書店名

注文数

お名前

電話番号

注文日 年 月